

国際会議から 第25回 マグネットテクノロジー国際会議 (MT-25)

本会議はマグネットテクノロジー（磁場技術）に関する国際会議で、2年ごとに場所を移しながら開催されています。今回はその第25回目の会議で、オランダのアムステルダムにて開催されました。一言に磁場技術といってもその分野は広く、核磁気共鳴 (NMR) や核磁気共鳴画像法 (MRI)、モーターや変圧器、限流器、国際熱核融合実験炉 (ITER) や加速器などの応用研究から、それを構成するコイル、ケーブル、線材といった基礎研究についての報告など、全800件の発表がありました。

発表では、ニホウ化マグネシウム (MgB₂) 超電導線材を用いたコイルの試験結果について報告しました。MgB₂は、近年、超電導を示すことが発見された新しい素材であるた

め、線材の構成やその機械特性、コイルの容量などについて質問があり、有意義な意見交換ができました。



福本祐介
材料技術研究部
超電導応用研究室
副主任研究員

アムステルダム市内は、バスやトラムが主な移動手段で、筆者も滞在中の移動手段として活用しました。いずれもトラム路線を主に走行しており、渋滞の影響を受けない効率的な輸送がなされていました。そのほか、市内を流れる運河が網目状にあり、水上からはレンガ造りの建物や教会など、歴史ある町並みを楽しむことができました。



国際会議の会場



運河から望むアムステルダム

正式名称：25th International Conference on Magnet Technology
 開催国：オランダ (アムステルダム)
 期間：2017/8/27-9/1
 主催：MT International Organizing Committee
 開催頻度：1回/2年
 次回開催予定：2019年9月 カナダ
 ホームページURL：http://www.mt-25.org/

国際会議から 第46回国際騒音制御工学会議 (INTER-NOISE 2017)

INTER-NOISEは騒音に関する大きな国際会議で、今回で46回目の開催です。発表される内容は道路・自動車騒音、航空機騒音、鉄道騒音、環境騒音、騒音に関するモデル化、音質評価、信号処理などの多岐にわたります。また、騒音に関する機器などの展示も行われます。

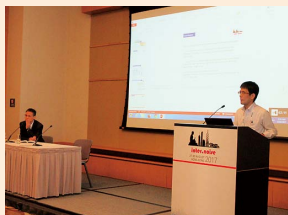
鉄道総研からは騒音解析研究室より山崎主任研究員と筆者が参加し、「Rail and rolling stock noise」というセッションで発表を行いました。筆者は「転動音と継目部衝撃音の模型試験」に関して発表し、山崎主任研究員は「新幹線の台車部空力音」に関して発表しました。筆者の発表に対しては、模型試験に関する質問のほかに実物の継目部衝撃音についての質問が多くありました。質問者は主に欧州や中国の研究者で、これらの地域での衝撃音への関心がうかがえました。ほかには、構造物音の解析や車内音の解析に関する発表、プレー



筆者の発表

末木健之
環境工学研究部
騒音解析研究室
主任研究員

キ装置変更時の転動音に関する発表などがありました。今回の開催地である香港の中心部の鉄道は、路面電車以外は地下に敷設されています。土地が狭いためでしょうか、利用した地下鉄がかなり深い場所に敷設されているのが印象的でした。



山崎主任研究員の発表



コーヒープレイク中の機器展示会場

正式名称：The 46th International Congress and Exposition on Noise Control Engineering
 開催国：香港
 期間：2017/8/27~30
 主催：国際騒音制御工学会 (I-INCE)
 開催頻度：年1回
 次回開催予定：2018年8月 アメリカ合衆国シカゴ市
 ホームページURL：http://internoise2017.org/